

松前

E V 電源 公園で調理

トヨタ フェス 災害対応 理解深める

電気自動車の電気で作ったパスタを盛り付ける高校生 4日午前、松前町筒井



トヨタ自動車が全国で展開する社会貢献活動「トヨタソーシャルフェス」(愛媛新聞社主催)が4日、松前町筒井の松前公園であった。県内の高校生ら約200人が、電気自動車(EV)を電源として用いた調理の体験などを通して、災害対応への理解を深めた。

そ汁などが完成すると「おいしい」「サバ缶が便利だね」と舌鼓を打っていた。

調理体験では、トマト缶や乾燥パスタ、アルファ化米などの保存食材を活用した防災レシピの考案と実践に取り組んだ。災害を想定し、包丁など調理器具の使用を制約。参加者は味付けや調理方法を熟考した。うまく食材を組み合わせて、ナポリタン風のパスタやみ

松山学院高校調理科3年の松本喬成さん(18)は「シイタケは手でちぎって料理した。普段と違って難しかったが、水と混ぜるだけでポテトサラダを作れる商品があることも分かった。勉強になった」と笑顔。

コーヒー抽出後の粉を使った汎用(はんよう)性の高い消臭剤づくり、災害対応用のキッチンカーやトイレカー展示、避難生活での栄養事情を学ぶ講座などもあり、参加者は緊急時の備えに意識を高めていた。

(柳生秀人)